

### Ⅲ FM島田 媒体評価

島田市が出資する「FM 島田」について、「自治体放送番組評価チェックポイント」に基づき、放送メディアの専門家で、当協会の広報アドバイザーである碓井広義氏が、さまざまな観点から評価した。これは、その結果をまとめたものである。なお、評価の対象は「FM 島田」の番組の中で、島田市が制作に関わっている「マイホームタウン島田」「市長と語ろう（マイホームタウン島田）」「お茶の時間ですよ」「広報しまだ（マイホームタウン島田）」「しまだ人（マイホームタウン島田）」「しまだ ふれあい まちあるき～コミバスに乗って」「サンデーRADIO スプーン」の7番組である。

それぞれの番組で、1から5とあるものは「評価ポイント」である。数字が大きいほど評価は高い。

採点結果一覧は以下の通り。

採点結果一覧	
1 マイホームタウン島田	[2]
2 市長と語ろう（マイホームタウン島田）	[3]
3 お茶の時間ですよ	[4]
4 広報しまだ（マイホームタウン島田）	[4]
5 しまだ人（マイホームタウン島田）	[4]
6 しまだ ふれあい まちあるき～コミバスに乗って	[2]
7 サンデーRADIO スプーン	[3]

## 1 マイホームタウン島田

～テーマに関係のない人でも興味がわく内容に

[評価：2]

評価対象番組初回放送日

5月23日（金）12時07分～12時17分

評価対象番組テーマ

茶園のプロと茶業のプロ

出演者

パーソナリティー 平松りえ

出演者 秋山：島田市農林課茶業基盤整備専門職員

榑原：島田市担い手育成企画指導員

### (1) 全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

「広報しまだ」に掲載された情報を中心に構成されているというが、活字メディアと放送メディアでは、その特性が違うように、同じ情報でも伝え方は自ずと異なってくる。しかし、この番組は、活字をそのまま電波に乗せたような印象を受ける。目で追いながら意味を考えることのできる内容も、電波の場合、そのままでは伝わらない。

### (2) 番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

人の興味を引くような、魅力的なタイトルではない。また、番組の内容を表しているわけでもない。さらに「ホームタウン」という言葉も、すでにやや古めかしい。

### (3) 出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

パーソナリティーの平松りえさんの声は柔らかく、聴きやすい。出演者に対しても失礼なこともなく、丁寧に向き合っており、好感がもてる。

専門職員と担い手育成指導員の出演は、テーマには合致しているが、説明が分かりやすいとは言えない。

#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

冒頭から「総合計画」や、「施策の大綱全体」といった行政用語をそのまま使っていることに驚く。全体的に説明が多すぎる。説明ばかりの番組と言ってもいい。専門職員と担い手育成指導員の2人が出演しているが、当然のことながら「話すこと」については“素人”であり、リスナーにとっては必ずしも聴きやすいわけではない。

#### (5) 全体的な意見・感想

番組としては誰を対象にしようとしているのだろうか。茶業に携わっている人なのか、それとも、携わってはいないが、茶業に興味のある島田市民を想定しているのだろうか。

今回のテーマがたまたま「茶園のプロと茶業のプロ」だから、対象が茶業に携わっている人や茶業に興味のある人向けに感じるのだが、実際に想定している対象者は島田市民全体のはずである。茶業に関係のない人でも興味がわくような内容も盛り込むべきである。

## 2 市長と語ろう（マイホームタウン島田） ～会話のキャッチボールになっていない

[評価：3]

評価対象番組初回放送日

6月16日（月）12時05分～12時25分

評価対象番組テーマ

はばたけ島田っ子（青少年教育） 前編

出演者

パーソナリティー 青木敬資

出演者 染谷絹代：島田市長

小澤康江：しまだガンバ指導員会長

山河哲太：しまだガンバ指導員

### （1）全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

「市長と語る」「市長が語る」といった内容は、全国の広報番組で散見される。その場合、市長が自分自身を前面に出し過ぎて、リスナーが引いてしまうケースが多い。

しかし、染谷市長はそうではなく、相手の話をよく聞く点に好感がもてる。問題は番組全体が長過ぎることだろう。

### （2）番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

「市長と語ろう」というのは、番組内容のコンセプトだ。この番組はコンセプトをそのままタイトルにしている。そのこと自体が悪いわけではないが、このタイトルにはリスナーを引き付ける力はない。

### （3）出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

パーソナリティーの青木敬資さんはソフトで好印象。相手の話を丁寧に聞く染谷市長も分かりだ。

ただ、「しまだガンバ」指導員会長の小澤さんは、いい人かもしれないが、リスナーにとってはややうっとうしい感じがする。自分自身と、自分がやっていることに自信があるのは結構だが、それが話の内容や話し方に出過ぎるように感じる。

#### **(4) 構成・表現力**

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

「市長がいて、何かを行っている市民がいる」という構造自体は悪くない。しかし、話す内容は、書かれた台本が用意されているのか、それぞれが語りたいことを語っている感じで、会話のキャッチボールになっていないのが残念だ。

#### **(5) 全体的な意見・感想**

「市長と語ろう」の、1回あたり20分という時間は長過ぎる。リスナーは聴いている途中で飽きてしまうだろう。10分くらいが聴きやすい。特に今回は、前後編になっているためトータル40分であるが、そこまで時間を使うような内容ではない。

全体をコンパクト化し、ゲスト（市民）の人選と、語ってもらう内容を整理すれば、だいぶ聴きやすくなるはずだ。

### 3 お茶の時間ですよ

#### ～ラジオ出演に慣れていない人には会話の誘導を

[評価：3]

評価対象番組初回放送日

6月9日(月) 12時05分～12時15分

評価対象番組テーマ

お茶の郷 月イチ茶話会の御案内

出演者

パーソナリティー 相川香：お茶パーソナリティー

出演者 加藤みつこ：島田市お茶の郷イベント担当職員

#### (1) 全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

地元・地域の特産である「お茶」。そのお茶にスポットを当てた番組は、企画として有意義だと言える。地元で暮らす人たちが、必ずしも地元の特産に詳しいわけではないからだ。この番組は、あくまでも普通の市民が興味を持てる内容になっており、その点が評価できる。

#### (2) 番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

往年のヒットドラマ「時間ですよ」を想起させるタイトルは堅苦しくなく、ユーモアがあっていい。

#### (3) 出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

お茶パーソナリティーの相川香さんは、明瞭なトークと明るい雰囲気でも好感度が高い。お茶の郷イベント担当職員の加藤さんは、いい人、真面目な人だとは思えるが、やや硬いままだったのが残念だ。

#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

お茶の郷イベント担当職員の加藤さんは、全体として原稿を読んでいるような硬さがある。読むのではなく、普通に話してほしい。もちろん素人なのだから、ラジオ出演に慣れているはずもなく、仕方ないかもしれない。しかし、それをうまく誘導するのも制作側の責任だ。

#### (5) 全体的な意見・感想

「お茶」という一品をめぐって、レギュラー番組が出来るというのも、お茶の持つ奥深さだと思う。できれば島田市民だけでなく、むしろ外部に向けて発信したい番組だ。ネット配信に向けたコンテンツだが、その場合は 5 分くらいに再編集したほうが、ネットで聴く人にとっては聴きやすいだろう。

#### 4 広報しまだ（マイホームタウン島田）

～取材体験を交えて自分の言葉で語っていて聴きやすい

[評価：4]

評価対象番組初回放送日

6月20日（金）12時07分～12時17分

評価対象番組テーマ

広報しまだ6月号

出演者

パーソナリティー 平松りえ

出演者 廣田：島田市企画部広報課

##### （1）全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

広報紙の内容紹介が、出演者2人の自然な語り口によって、単なる紙面紹介にとどまらず、独立した番組として成立している。全体として好印象の番組だ。

##### （2）番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

「広報しまだ」を紹介するので、タイトルが「広報しまだ」なのだろうか。その通りの内容かもしれないが、あまりに無造作過ぎないだろうか。内容は悪くないので惜しい。

##### （3）出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

パーソナリティーの平松りえさんは、「〇〇ですよねえ」といった言葉遣いも含め、柔らかい話し方で親しみがもてる。広報課職員の廣田さんも、用意した原稿を読むのではなく、自身の言葉で語っている、話しているという雰囲気があって聴きやすい。



#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

職員の廣田さんが、自身の取材体験も交えて話をしていることで、単に印刷された内容をなぞるだけではない番組になっている。また、それによって、記事のほうも読んでみたくなる。

#### (5) 全体的な意見・感想

ラジオは音声だけであるがゆえに、出演者の存在は大きい。この番組での平松さんと廣田さんの掛け合いは、聴いていて心地よい。

## 5 しまだ人（マイホームタウン島田）

～インタビューものは聞き手がもっと出演者に興味を持つべき

[評価：4]

評価対象番組初回放送日

5月23日（金）12時07分～12時20分

評価対象番組テーマ

五和村村報をDVD化 ～斎藤辰美

出演者

パーソナリティー 青木敬資

出演者 斎藤辰美：理髪店経営（金谷竹下在住）

### （1）全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

こうした内容の番組は、一にも二にもゲストの人選が成否の鍵となる。今回は、ゲストの話に興味深く聴くことができた。何より、「地元こんな素敵な人がいる」ということを市民に伝えることに意義がある。

### （2）番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

広報紙の連載記事「しまだ人」に準拠しているので、タイトルが「しまだ人」。前述の「広報しまだ」と同じで、その通りの内容かもしれないが、あまりに無造作だ。広報紙とは別の、番組独自のタイトルでもいいのではないか。

### （3）出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

パーソナリティーの青木敬資さんの語りか、この番組では少し硬い。  
逆に、理容店の三代目・斎藤さんは、構えずに自然に話をしていて大変いい。

#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

村報を DVD 化するという、行政がやるべきことかもしれない取り組みを、個人で行ったという話題が興味深い。放送の場合は、出演者の人柄がストレートに伝わってしまう。それだけに人選が大切になる。もちろん先に広報紙があるわけだが、今回は成功例だろう。

#### (5) 全体的な意見・感想

こうした番組は、うまくいった場合、小さな「インタビュー・ノンフィクション」とも言えるものとなる。そのためには、聞き手がもっとゲストに興味を持たなくてはならないだろう。パーソナリティーの青木さんが、この番組では、やや型通りの「聞き役」に埋没しているのが残念だ。

## 6 しまだ ふれあい まち歩き ～コミバスに乗って ～ロケの臨場感が希薄で出演者との出会いもわざとらしい

[評価：2]

評価対象番組初回放送日

6月13日（金）12時05分～12時20分

評価対象番組テーマ

大津線 六合駅方面行きに乗って行こう

出演者

レポーター 青木敬資  
渡辺愛

出演者 土屋直亮：町内会長  
山本：島田工業高校生徒、生徒会長、  
FM島田ハイスクールラジオ担当  
山内：島田工業高校生徒  
松下：島田工業高校生徒、生徒会副会長、  
FM島田ハイスクールラジオ担当

### (1) 全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

バスを活用してのまち歩き、悪い企画ではない。ただ、ロケをしているにせよ、「臨場感」が希薄で、実にもったいない。「バスに乗る」という雰囲気も出ていない。また「段取り」優先の作り方にも疑問を感じる。

### (2) 番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

「しまだ ふれあい まちあるき」は語呂もよく、堅くなくて、内容に合致している。

### (3) 出演者

レポーターは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

レポーターは青木敬資さんと渡辺愛さんの2人である。この渡辺さんはどんなキャリア

の女性なのか分からないが、無理に明るく元気に振る舞おうとしているかのようなうっとりしきがある。また、「〇〇ってさあ〜」といった変にくだけた言葉遣いも、親しみというより、やや下品な感じを受けてしまう。

#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

「途中下車」だと言うが、そもそもバスに乗っていること自体が放送から伝わってこない。もっと言えば、登場する公園などに本当に行っているのかどうかも、リスナーには分からない(感じられない)ほど、「臨場感」が薄い。それは現地・現場を描写する言葉、表現力・描写力が弱いためだろう。

また、この番組に出演する人たちの登場方法に問題がある。まち歩きをしていて、そこで「出会った」という設定のはずだし、それらしく構成されているが、実際には、全部「仕込んだ」人たちではないかと思う。

偶然出会った設定の人が、よどみなく史跡保存会の説明を行い、レポーターは「お詳しいですね」などと持ち上げているが、実は「歴史研究をしている町内会長」だった。これは偶然ではなく、お願いして、待ってもらっていたのではないか。だから、「あちらにどなたか、いらっしゃるよ」などというレポーターの言葉がうそくさいのだ。待ち合わせたなら、そう言えばいい。

さらに、工業高校の生徒も同様だ。レポーターが「見たことある生徒だ」などと言って、生徒会長でハイスクールラジオの担当者でもある生徒が登場する。しかも、そこに副会長の女子生徒までやって来るのだ。これも、普通に考えれば「仕込み」だと分かる。

#### (5) 全体的な意見・感想

せっかくのロケ収録であり、まち歩きによる「ふれあい」を標榜してもいるにもかかわらず、スタジオに呼んで話を聞くのと変わらないような作りはもったいない。出演者の仕込みが悪いと言っているわけではない。偶然に出会ったような作りが、わざとらしく、聴いていて恥ずかしいのだ。この辺りは、リスナーを欺いているような、根本的な欠陥になるので、再考すべきだろう。

## 7 サンデーRADIO スプーン

～1時間番組なら出演者は3人くらいほしい

[評価：3]

評価対象番組初回放送日

6月22日（日）11時00分～12時00分

評価対象番組テーマ

夏だ！ キャンプだ！！ バーベキューだ！！

出演者

パーソナリティー 青木敬資

出演者 山田：アウトドアショップ SWEN 島田店店長

### (1) 全体評価

内容の掘り下げはどうか、分かりやすい内容か、説得力はあるか、共感は得られるか etc

まず、こうした柔らかい内容の広報番組を放送していることを評価したい。また、「公開生放送」という形や、ネットラジオの活用も大変いいことだ。後は内容である。

### (2) 番組タイトル

内容を表すタイトルか、聴取者を引きつけるタイトルか etc

「スプーン」の意味がよく分からない。あれこれ「すくう」ということか。

### (3) 出演者

パーソナリティーは番組にふさわしいか、その他の出演者は番組にふさわしいか etc

パーソナリティーの青木敬資さんは、週末らしく、またこの番組らしいタッチで、好印象である。

アウトドアショップ店長の山田さんは、もちろん専門部分は詳しいわけだが、どこか傲慢気味に聞こえるのが残念だ。

#### (4) 構成・表現力

出だして聴取者を引きつけているか、最後まで聴取者を引きつけているか、  
番組のテンポ・メリハリはいいか、構成全般はどうか、技術的な表現力はどうか etc

季節柄、アウトドアをテーマにしたことは悪くない。ただし、1時間番組で、ゲストがアウトドアショップ店長 1 人だけという構成には無理がある。さすがに聴いていて飽きるのだ。もう 2 人くらい、このテーマについて別の角度から語れるゲストを招いてほしい。3 人のゲストで 3 つのブロックを作れば、1 時間ずっと聴いていられるだろう。

#### (5) 全体的な意見・感想

「公開生放送」というのは、ラジオというメディアの特性を生かせる形式だ。ところが、この番組を聴いていても、特に「公開」という雰囲気も、「生放送」という同時性も伝わってこない。番組の冒頭で、天候の話を軽くしただけで、あとは「公開」しているような、スタジオの外で見ている観客とのやりとりもない。これだと、閉鎖されたスタジオで収録しても同じである。

## 8 FM 番組制作における課題・問題点

### (1) ゲストの選定に電話出演の導入を

ラジオに「呼ばねばならない人」、ラジオで「話してもらわねばならない人」の出演も必要だが、本来は「呼びたい人」「話してほしい人」「話を聞いてみたい人」が最優先である。ただし、魅力的なゲストは制作側が常にアンテナを張っていないと見出せない。その意味では制作側の好奇心の幅と奥深さが問われることになる。

また、違った発想もある。それは「電話出演」だ。音声メディアであるラジオにおいて、「ゲスト出演」に関して現在も多くのラジオ局が使っている手法である。スタジオまで来てもらわなくても、電話であれば（ましてや携帯電話の時代だから）、どこにいる人であっても出演は可能である。実際に神奈川県川崎市在住の私も名古屋や広島のリジオ番組に、電話で「ゲスト出演」、それも「生出演」することがある。電話出演を積極的に導入すれば、ゲストの選定の幅が大きく広がるはずだ。

### (2) FM 島田のスタッフ不足は市民参加で補う方法も

「FM 島田」では、すでに一部で高校生の参加を実施しているようだが、市民から「ボランティア・スタッフ」を募集することも考えられる。各地の市町村が放送している広報番組には、市民レポーターが頻繁に登場している。島田市にも、番組に「出ること」だけでなく、「作ること」に参加したい市民もいるはず。広く呼びかけてみたらどうだろう。思わぬ逸材が発見できるかもしれない。

### (3) 民間とのタイアップを積極的に進める

これは積極的に進めるべきである。もちろん、相手を吟味し選択することは必要だが、ソフトなタイアップを行うことで、番組に厚みが出たり、より高いPR効果が得られたりすることがある。タイアップをしたからといって、相手企業の意向に流されることなく、いい意味で相手を活用しながら、自分たちが作りたい内容を実現させていってはどうか。

### (4) FM 島田の電波料は高くない

電波料が高いという問題を抱えているとのこと。島田市がFM番組に充てることのできる総予算が分からないので何とも言えないが、全国的には、コミュニティFMの「電波料」と放送運行管理費を含む「制作費」のトータルの相場は、1分2,000円～3,000円である。それを踏まえると、「FM 島田」の電波料が1分1,000円という設定は決して高いとはいえない



い。

#### **(5) FM 番組の効果は数値で測れない部分がある**

市の課題として挙げられている「市の交流人口の増加を目的とするならば、「FM 島田」で放送することは PR 効果が低いと思われるが、インターネットサイマル放送を開始し、全国、世界でもネット環境があれば聴取可能となった。これにより U ターンや I ターンして島田に定住する人が増加すれば効果は大と考えるが、数値として図ることが難しい」というのは理解できる。

ただ、行政がこうした番組を持つ場合、数字など目に見える形だけで効果が測れるものではない。例えば、市が地元のコミュニティ FM で番組を提供していること自体が、地域コミュニティや地域コミュニケーションに対する自らの“姿勢”を示していることになる。また、市長が出演する番組を放送していることは、市民と行政との幅広いコミュニケーションを展開したいという“意思”の表れでもある。

インターネットサイマル放送によって、これまでとは違い、思わぬところで、思わぬ人たちが聴いていてくれるという状況が生まれた。実際に U ターンや I ターンということではなくても、全国にいる島田市出身者にとっての「心のよりどころ」になっている場合もあるはず。「故郷からの発信」は、実利だけではない、見えない効果も生んでいると思う。

#### **(6) 地元意識を呼び起こすためにも特別番組は必要**

通常番組とは別に、もしくは通常番組の拡大版やスペシャル版として、「大井川マラソン」や「まつり」「花火大会」などを放送することは、リスナー（市民）にとっても、また番組を提供する行政側にとっても、実にいいことである。

もちろん通常の番組提供や番組作りの範囲内では難しいので、最近の映画等でよく見られる「実行委員会方式」がいいかもしれない。具体的には出資予算の大きさによって、委員会参加メンバー（企業）の CM や告知の長さを調整していくというものである。

地元のイベントは、ローカル局でも小さなニュース扱いがせいぜいなので、地元の FM 局がそれを中継することは、市民の「地元意識」や「地域への関心」を呼び起こす、いいきっかけになるといえる。例えば、全国高校野球の静岡県予選、島田商業高等学校の試合の実況生中継を毎年行っているようだが、こういった取り組みは市民にとって必要である。

#### **(7) 見直すべき番組**

今回の媒体評価作業で、内容を見直したほうが、よりよいものになるのではないかと考える番組は、以下の通りである。その詳細理由については各番組評価を参照してほしい。

- ① 「1 マイホームタウン島田」

行政側からの説明ばかりという印象。

② 「6 しまだ ふれあい まち歩き ～コミバスに乗って」

企画自体は悪くないが、まち歩きの臨場感が希薄。

③ 「7 サンデーRADIO スプーン」

公開放送や生放送のメリットがあまり感じられない。

これらの内容はもちろん、市が提供している番組全体の中での位置づけも含め、検討してみることをお勧めしたい。